

<第88回調査>

2016年09月26日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2016年09月13日(火)13:00～2016年09月20日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は892件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

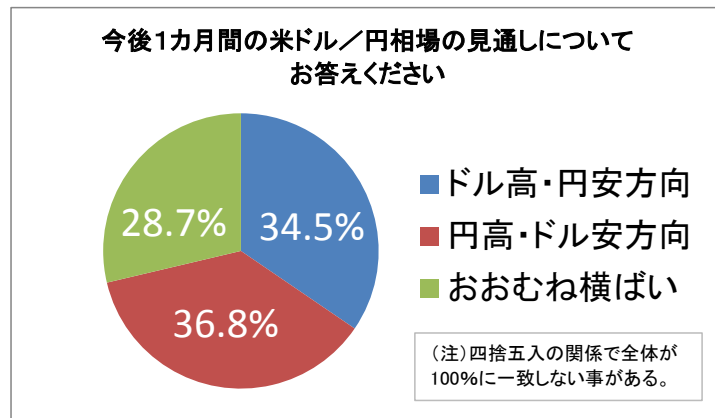
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第88回調査結果略報：ドル弱気・円強気姿勢が緩む】

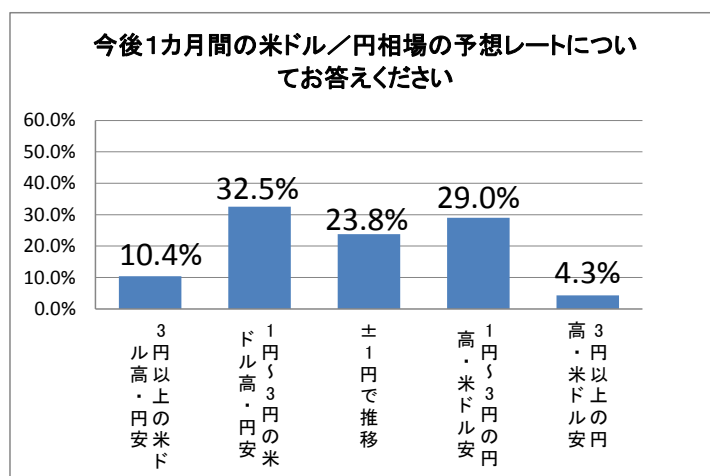
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が34.5%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は36.8%と拮抗した。この結果「米ドル/円予想DI」は▲2.3%ポイントと、2カ月連続のマイナスDIとなったが、マイナス幅は前回の▲22.4%から大きく縮小した。調査期間中の米ドル/円相場は日米同日(21日)の金融政策発表を睨んで101.40円台から103.30円台で方向感なく推移したが、そうした中でもFX投資家の下値警戒感がやや緩む格好となった。ドル/円相場は、6月以来数回にわたり100円割れを試したが、その都度盛り返している。そうした底堅い動きによってFX投資家の間に底入れ期待が芽生え始めたのかもしれない。※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が32.5%と最も多く、「1円～3円の円高・米ドル安」が29.0%と続いた。さらに「±1円で推移」が23.8%と続き、「3円以上の米ドル高・円安」は10.4%、「3円以上の円高・米ドル安」は4.3%に留まった。ヒストグラムの形状は、両サイドと中心が低いM字型を描いている。FX投資家の見方が割れている様子が示されており、問1の結果とも整合的と言えるだろう。



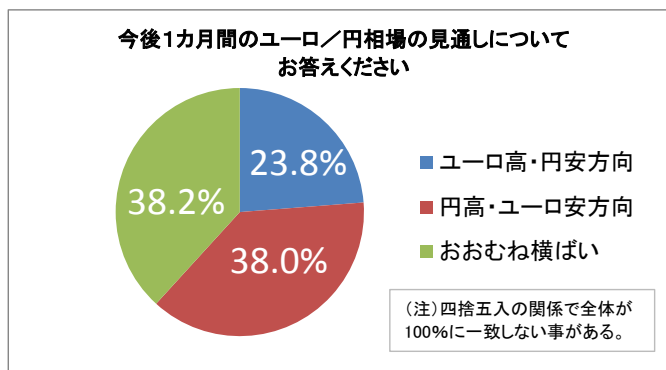
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が23.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が38.0%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は▼14.2%ポイントと、13カ月連続のマイナスDIとなったが、前回調査(▼30.9%ポイント)からマイナス幅は半減した。調査期間中のユーロ/円相場は、116円台で上値が重くなり、113円台へと弱含むやや軟調な推移であった。それでも米ドル/円と同様にFX投資家の下値警戒感は緩んだ格好だ。こちらも6月の英国の欧州連合(EU)離脱決定で示現した109円台の安値から下値を切り上げている点が、底入れ感を醸成しているのかもしれない。ただ、「おおむね横ばい」とした割合が最多であり、明確な反発局面入りはまだとの見方も根強い模様だ。

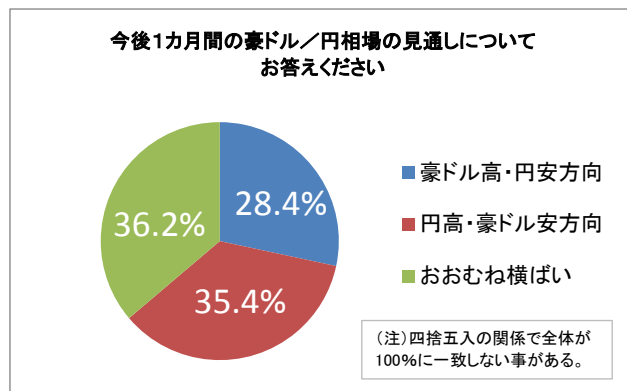
※過去のユーロ円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が28.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は35.4%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は▼7.0%ポイントとなり、前回調査(▼14.3%ポイント)からマイナス幅が縮小した。調査期間中の豪ドル/円相場は76~77円台を中心とした値動きで方向感が定まらなかったが、米ドル/円、ユーロ/円と同様に見通しが中立化しているようだ。もっとも、いずれの通貨ペアも予想DIは依然としてマイナス圏であり、FX投資家の外貨買い・円売り意欲が強まっているとは言い切れない。今後の相場展開次第では再び円強気見通しに傾いても不思議ではない状況だろう。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。

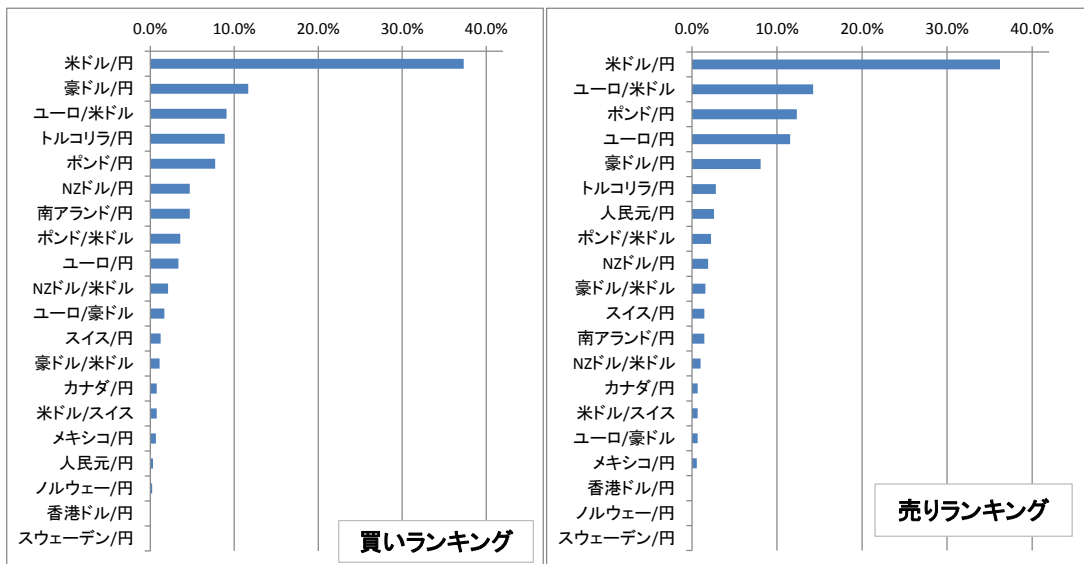


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が37.3%の回答割合を集めて1位。以下、2位に豪ドル/円(11.7%)、3位にユーロ/ドル(9.1%)、4位トルコリラ/円(8.9%)、5位ポンド/円(7.7%)と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位が米ドル/円(36.2%)、2位ユーロ/ドル(14.2%)、3位ポンド/円(12.3%)、4位ユーロ/円(11.5%)、5位豪ドル/円(8.1%)となった。「買い」で注目のランキングは米ドル/円が48カ月に渡り1位の座を独占、今回も2位以下に圧倒的な大差を付けている。一方、米ドル/円は「売り」で注目のランキングでも1位の座を維持。今年に入り「売り」ランキングで1位の座を譲ったのは、7月調査(英EU離脱決定翌月のポンド/円)の1度だけだ。今回も、2位のユーロ/ドルに20%ポイント超の大差を付けて独走態勢となっている。FX投資家の売買興味が米ドル/円に集中している格好だが、米ドル/円以外には積極的に売買したい通貨ペアが見当たらないという事情もあるのだろう。

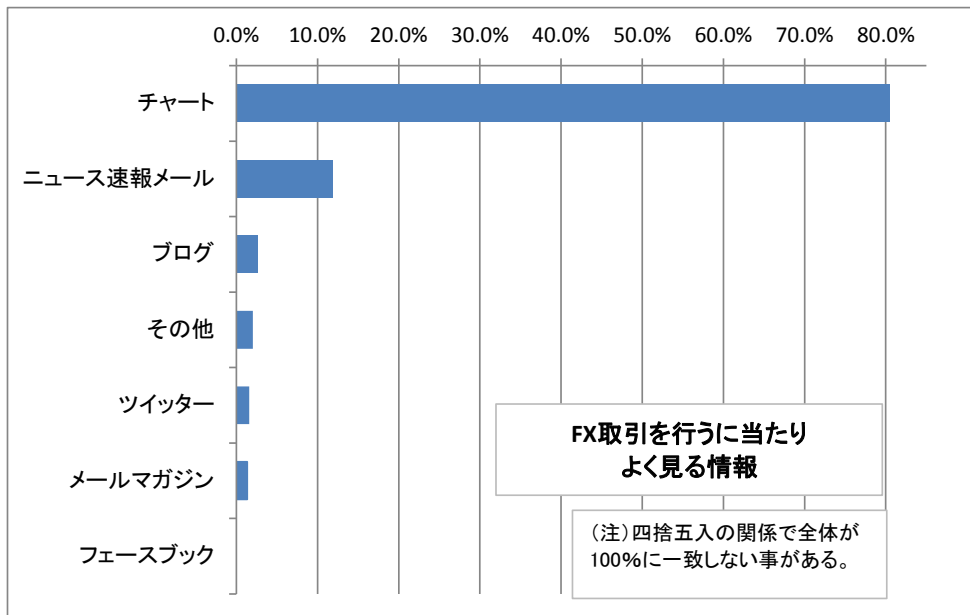


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6: FX取引を行うに当たり、最もよくチェックする情報(ツール)は何か？(ひとつだけ)

今回の特別質問として、「FX取引を行うに当たり、最もよくチェックする情報(ツール)は何でしょうか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「チャート」と答えた割合が80.5%に上り、圧倒的の大多数を占めた。以下、「ニュース速報メール(11.9%)」、「ブログ(2.7%)」、「ツイッター(1.6%)」と続いた。その理由を自由記述形式で尋ねたところ、「チャート」とした向きからは「流れを確認できる」「値動きの推移が重要」などとする連続性を重視した回答のほか、「見た目でトレンドが判断できる」などと、ビジュアル性重視の回答も目立った。「チャート」を分析ツールというよりも情報ツールとして捉えている向きが少なくない事が改めてわかった。もちろん、「チャートには全てのデータが反映される」「チャートしか見ない」といったチャート偏愛的な回答も散見された。また、「ニュース速報メール」とした向きからは「情報元がはっきりしており、信頼性がある」との回答があった。また、「信頼しているブログを読んだ上で戦略を練る」との回答や「ツイッターの速報性を重宝している」との回答も見られた。

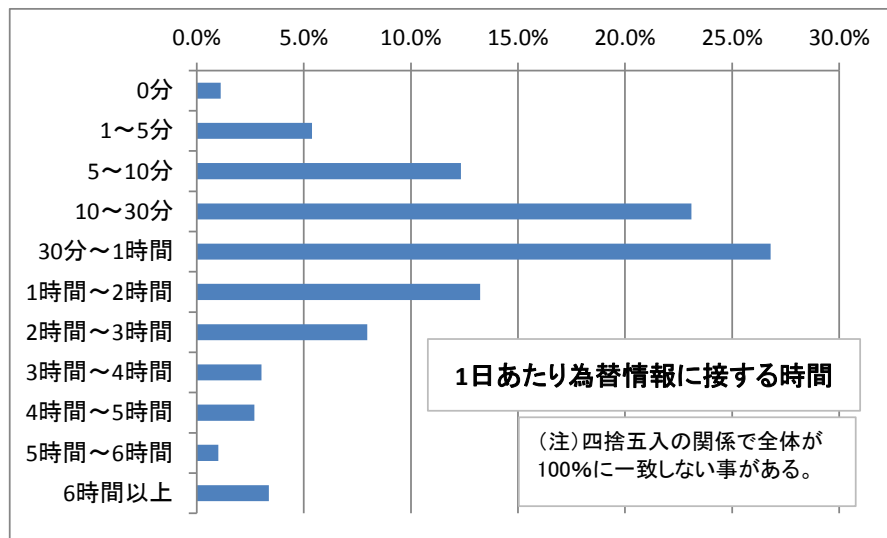


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問7:一日当たり、為替に関する情報に接している時間はどれくらいですか？(ひとつだけ)

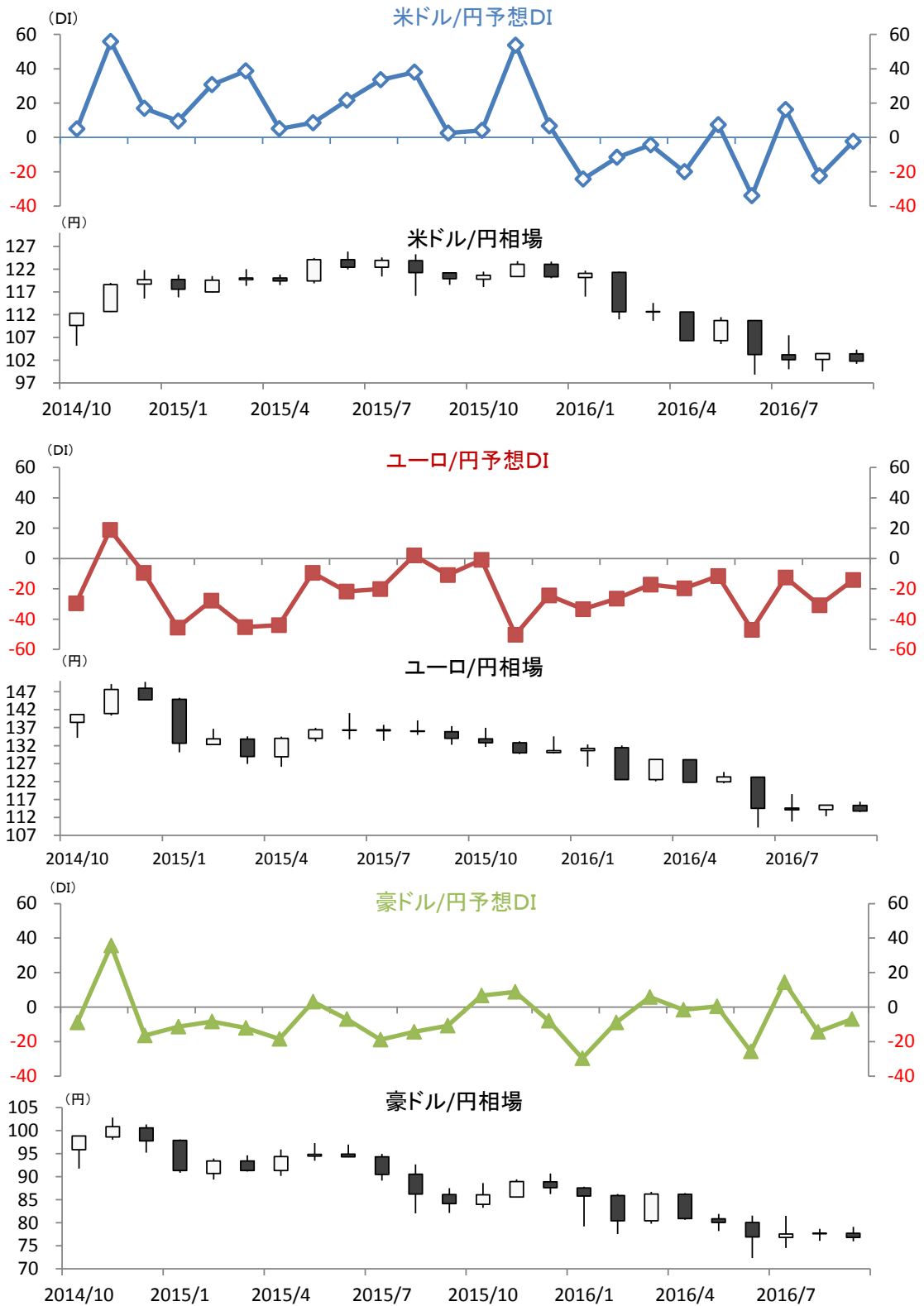
今回のもうひとつの特別質問項目として、「一日当たり、為替に関する情報に接している時間はどれくらいですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「30分～1時間」が26.8%と最も多く、僅差で「10～30分(23.1%)」と続き、次いで「1時間～2時間(13.2%)」、「5～10分(12.3%)」、「2時間～3時間(8.0%)」という順になった。なお、「6時間以上」と答えた猛者も3.4%存在した。8割のFX投資家が、情報としてチャートを最も多くチェックすると回答した問6の結果に鑑みれば、この回答は為替チャートの画面に接している時間と読み替えても差し支えないだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第88回目となりました。調査開始から7年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2014年	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5
2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1
	4月	31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5
	5月	29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1
	6月	43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0
	7月	49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9
	8月	51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4
	9月	37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8
	10月	30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6
	11月	67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8
	12月	43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9
2016年	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7
	2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0
	3月	33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8
	4月	30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5
	5月	40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4
	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4
	8月	26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3
	9月	34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com